

【湖南省の歴史文化に対する意識】A

＜一般＞

興味関心について、「興味関心がある」と回答したのは 88.8%と大多数の人が歴史文化に関心があり、年齢別でみると年齢を重ねると興味関心が高くなる傾向があります（P5）。

興味関心の対象として、一般では「神社仏閣」の割合が高く、一方、「絵画」「方言・しきたり」は低くなっています。（P6）年代・地域別でも同様の結果です。

一方「興味関心がない」と回答した理由は「難しい、わかりにくい」の割合が高くなっています。（P9）

全体的な「歴史文化自然のイメージ」では、「未来に伝えていくべきもの」「地域の魅力」「大切な宝物・誇り」といったポジティブな回答が多数を占めました（P11）。また、興味関心がない人の理由では「難しい・わかりにくい」といった意見が多い一方で、「身近にない」「歴史が好きではない」の割合は少ない状況です。

また、一般的な「湖南省らしさのイメージ」では、「自然がいっぱいある」の回答が高く（P13）、総合計画アンケートの「住み続けたいまちのイメージ」の「森や川、公園などの自然がいっぱいのまち」の回答割合が 18.2%と比較的高い数字であることも整合性がとれます。

次に「湖南省らしい歴史文化自然のイメージ」では、「常楽寺、長寿寺、常楽寺などのお寺や神社」の割合が最も高く、湖南三山が浸透してきていること、地域に寺社が根付いていることが推測されます（P15）。

一方で総合計画アンケート「住み続けたいまちのイメージ」では「歴史文化を大切にすまち」の割合は 3.4%とかなり低く、言い換えると「歴史文化に湖南省らしさを感じている人は少ない」と捉えることができます。

以上から、一般では、多くは歴史文化自然に興味関心があり、また、大切な宝物、未来に伝えていくべきもの等のポジティブなイメージを持っていることがわかります。一方でその他の選択肢が多くある場合、「歴史文化自然」と事前に限定されていない状況では、「歴史文化自然」に湖南省らしさを感じていないことがわかります。

＜中学校＞

興味関心について、「興味関心がある」は 53%、「興味関心がない」は 47%とほぼ半々に分かれました。中学校別では甲西北中学校、日枝中学校が「興味関心がない」の割合が「興味関心がある」を上回っています（P31）。

興味関心の対象として、「美しい場所」の割合が高く、一方、絵画や仏像は低くなっています（P33）。

一方「興味関心がない」と回答した理由は「むずかしくてよくわからないから」が最も高く、「歴史が好きではないから」「他に楽しいこと、知りたいことがあるから」も高くなっています（P35）。これは勉強としての歴史文化への苦手意識であったり、交友関係・活動範囲が広くなったり、部活動等への取組みであったり、他に興味関心がうつっていることが考えられます。一方で、「身近にないから」の割合は 9.5%と低く、「歴史文化自然」をまったく身近に感じていないというわけではないと考えられます。

全体的な「歴史文化自然のイメージ」では、「未来に伝えていくべきもの」「大切なたからもの」の割合が

高くなっています（P37）。一方で「すごいもの、じまんできるもの」の割合は低くなっています。

次に一般的な「湖南省らしさのイメージ」では、「自然がいっぱいある」が高く（P39）、一般と同様に総合計画アンケート「住みたいまちのイメージ」の「森や川、公園などの自然がいっぱいのまち」の回答割合が 28.9%と比較的高い数字であることも整合性がとれます。また、「魅力的な文化財や伝統行事がある」の割合は最も低く、中学生は「歴史文化自然」を湖南省らしさであると感じている人は少ないことが考えられます。

次に「湖南省らしい歴史文化自然のイメージ」では、「常楽寺、長寿寺、善水寺などのお寺や神社」の割合が最も高く、湖南三山が浸透してきていること、地域に寺社が根付いていることが推測されます。（P41）

一方で総合計画アンケート「住みたいまちのイメージ」において、中学生は「歴史文化を大切にするまち」の割合は 4.4%とかなり低く、言い換えると「歴史文化に湖南省らしさを感じている人は少ない」と捉えることができます。

以上から、中学生では、興味関心については半々であり、興味関心がない生徒の理由では「身近にないから」の割合は低く、また、中学生にとっての「歴史文化自然」は未来に伝えていくべきものとの認識はあるが、自慢できるものであるとの認識が低くなっていることから、「湖南省の歴史文化自然は身近で、大切なもの」と認識されているが、これが「外向けに誇れる湖南省らしさ、魅力」であるとは認識していないと考えられます。（極端な解釈かもしれませんが）

<小学校>

興味関心について「興味関心がある」は 73.9%と多くの生徒が歴史文化自然に興味関心があることがわかります（P49）。

興味関心の対象として「刀、よろい、古いお皿」が高く（P51）「お祭りや歌舞伎などの伝統芸能」の割合が低くなっています。刀等の割合が高くなるのは、漫画やアニメの影響があると考えられます。一方、「興味関心がない」と回答した理由は「むずかしくてよくわからない」「歴史が好きではないから」の割合が高くなっています（P53）。これは勉強としての歴史文化への苦手意識があると考えられます。一方で、中学校と同様に「身近になから」の割合は 11.3%と他と比較して低く、「歴史文化自然」をまったく身近に感じていないわけではないと考えられます。

全体的な「歴史文化自然のイメージ」では、「未来に伝えていくべきもの」「大切なたからもの」の割合が高くなっています（P55）。一方「すごいもの、じまんできるもの」の割合は低くなっています。

次に一般的な「湖南省らしさのイメージ」では、「自然がいっぱいある」が高くなっています（P57）。また、「魅力的な文化財や伝統行事がある」の割合は 26.7%と少し低く、小学生は「歴史文化自然」を湖南省らしさであると感じている人が少ないことが考えられます。

次に「湖南省らしい歴史文化自然のイメージ」では、「常楽寺、長寿寺、善水寺などのお寺や神社」の割合が最も高く、湖南三山が浸透してきていること、地域に社寺が根付いていることが推測されます（P59）。

以上から、小学生では、多くは歴史文化自然に興味関心があり、未来に伝えていくべきもの等のポジ

ティブなイメージを持っていることがわかります。一方で、歴史文化自然を自慢できるものとの認識は低くなっていることから、中学校と同様に歴史文化自然を身近に感じ、大切であるとの認識はあるが、外向けに誇れるものであるとの認識は低いことが考えられます。

＜まとめ＞

一般、中学生、小学生と多くの方が「歴史・文化・自然」に興味を持っていることがわかります。しかし、中学生では交友関係、活動範囲が広くなるなかでその興味は薄れることがわかります。また、小中学生では、湖南省の歴史文化自然は大切な宝物であり、未来に伝えていくべきものとの認識は強いが、これを「外向けに誇れるものであるとの認識」は低いことが考えられ、一般では選択肢が多々ある場合では「歴史文化自然」に湖南省らしさを感じていないことが考えられます。

【文化財を管理するうえでの課題調査】B

＜一般＞

多くの人が歴史文化自然を大切にすることは大事であると回答しており、「地域の誇り」「アイデンティティ」「愛着が湧く第一歩」「失われれば戻らない」など地域住民の繋がりが町の個性として捉えている人が多くおられます（P20）。一方で、大事だと思わない理由として、「大事だと感じるが、未来への投資の方が優先順位が高い」「税金を増やす方向の方が市政としてはいいと思う」といった優先順位としては他と比較して低くなるといった意見でした。

次に「あなたが協力できそうなこと」として、すべての年代、地域において「清掃活動」「イベント参加」「お祭り等の参加」といった直接に歴史文化自然に触れるような内容の回答が多くありました（P21）。また、不足していることとして、「管理者」「費用」「情報発信」の項目が高く、その他としては市の取組みが不十分との意見があがられています（P20）。

以上から、多くの人が清掃活動やイベント参加、お祭りへの参加を通じて歴史文化自然を大切にしていきたいと考えていることがわかります。しかし、大切にするうえで、管理者不足、費用不足等の懸案事項や市の取組みが不十分であると考えられます。

＜中学校＞

多くの生徒が歴史文化自然を大切にすることは大事であると回答しています（P43）。そして、「あなたが協力できそうなこと」として、「清掃活動」「お祭り等の参加」があげられる一方で、「見学会や勉強会の参加」は15.2%と低い数字となっています（P44）。

以上から、清掃活動等を通じて歴史文化自然を大切にしていきたいと考えていることが分かります。一方で、勉強としての歴史文化自然に対する苦手意識や「勉強会」といった言葉の固いイメージから「勉強会等の参加」が低くなったと考えられます。

<小学校>

多くの生徒が歴史文化自然を大切にすることは大事であると回答しています（P61）。そして、「あなたが協力できそうなこと」として、「清掃活動」「お祭り等の参加」があげられる一方で「見学会や勉強会の参加」は少し低い数字となっています（P62）。

以上から、清掃活動等を通じて歴史文化自然を大切にしていきたいと考えていることが分かります。一方で、勉強としての歴史文化自然に対する苦手意識や、「勉強会」といった言葉のイメージが固いことから「勉強会等の参加」が少し低い数字になったと考えられます。

<まとめ>

多くの人が清掃活動やイベント参加を通じて歴史文化自然を大切にしたいと考えていることがわかります。しかしながら、大切にしようとするうえでの問題点として管理者不足、費用不足、市の取組み不足があげられます。

【文化財を活用するうえでの課題調査】C

<一般>

歴史文化自然を大切にするためのアイデアとして、「歴史に触れる参加しやすいイベント」「歴史文化と結び付けた居場所づくり」などたくさんのご意見をいただきました。

上記【文化財を管理するうえでの課題調査】B および上記から、ガイド付きのまち歩きなど参加しやすいイベントの企画など、市民が直接歴史文化自然に触れるような機会の創出が必要と考えられます。また、「情報発信」も活用するうえで不足していると考えられるため、現在の広報手段だけでなく、方法や企画の内容やタイトル等のさらなる検討が必要です。

【次世代に残したい、伝えたい文化財の抽出】D

「湖南市らしい歴史文化自然」の質問項目に挙げていたものの他に、次のような歴史文化自然があげられました。

- ・隧道（マンボ） ・岩根山（十二坊）の自然 ・ゾウの足跡化石
- ・龍池藤兵衛氏や天保義民などの市域で活躍した人物 ・愛宕祭りなど地域の祭り

これらは、市や各地域で大切にされている、大切にしていけるべき歴史文化自然であると考えられるため、今後管理や活用等の検討が必要となります。

【全体まとめ】

大多数の人が歴史文化自然に興味をもっており、また大切な宝物等のポジティブな印象をもつが、これらを「湖南市らしさ」と感じる人は多くなく、また小中学生では対外的に誇れるものとの認識が低いことが考えられます。歴史文化自然をより対外的な誇れるものとするためには、まず市および市民の意識改革が必要であり、清掃活動等のイベントを通じてこれらを醸成していく必要があると考えられます。